

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第4区分

【発行日】平成17年4月28日(2005.4.28)

【公開番号】特開2003-324948(P2003-324948A)

【公開日】平成15年11月14日(2003.11.14)

【出願番号】特願2002-133292(P2002-133292)

【国際特許分類第7版】

H 02 M 3/28

【F I】

H 02 M 3/28

C

【手続補正書】

【提出日】平成16年6月17日(2004.6.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

ここで、直流電圧出力側の負荷を無限大～0まで減らしていくと負荷に流れる電流が増加し、スイッチングトランジスタQ1のONデューティー(第1の一次側巻線P1に発生する電圧のONデューティー)が長くなっていく。そして、あるONデューティーの長さになると、トランジスタQ2のベースは、フォトカプラPC1がONしなくても充電されるようになり、それによって、直流出力電圧が低下していく(図6の符号Aで示した点)。直流出力電圧が低下していくと、スイッチングトランジスタQ1のONデューティーの電圧、つまり、第1の一次側巻線P1に発生する電圧(図5のP1波形)のONデューティーの電圧が低下していく(図5のP1波形の一点鎖線で示した波形)。それによって、第2の一次側巻線P2に発生する電圧(図5のP2波形)のONデューティーの電圧も低下していく(図5のP2波形の一点鎖線で示した波形)、トランジスタQ2の負へのバイアス電圧(ベース-エミッタ間電圧)が浅くなっている(図5のQ2Vbe波形の一点鎖線で示した波形)、トランジスタQ2がONしやすくなっている。したがって、直流電圧の出力特性としては、フォールドバックとなる。